

としよかん宇治

No. 28

1993年1月15日発行

宇治市中央図書館

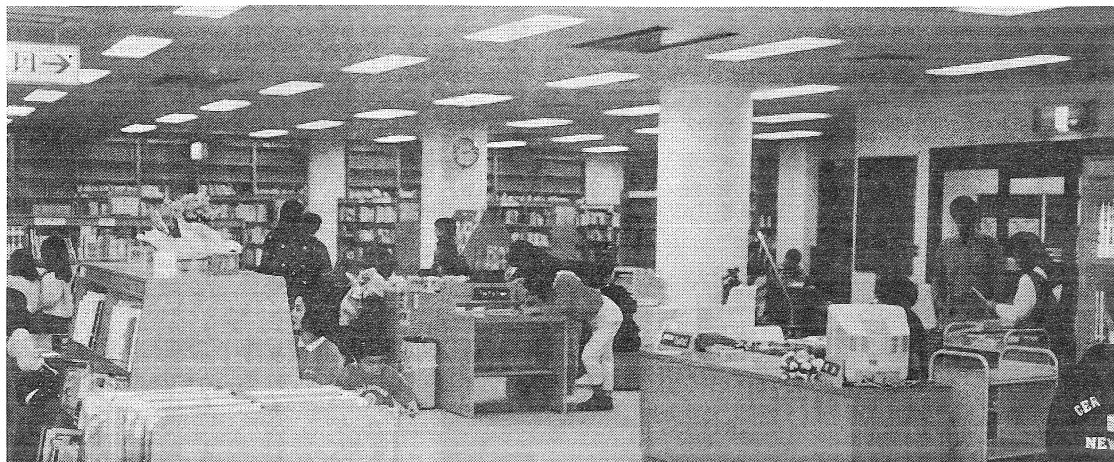
宇治市文化センター内

〒611

宇治市折居台1丁目1番地

電話 20 1511

東宇治図書館がオープン



利用者でにぎわう東宇治図書館

「きれいで、あかるいわ。」
「としよかんという所にはじめてきたわ。」
「あっ、この本学校にもある。」
「これから、毎日本を読むようにしようかな。」

いやはや、午後の図書館はにぎやかにぎやか……。

平成四年十一月十七日、黄檗駅から歩いて十分、すぐ近くには黄檗山万福寺がある静かなところに、中央図書館のはじめての分館となる東宇治図書館がオープンしました。

この分館は、中央館を日常的に利用しにくい東宇治地域の方々に本や情報を提供し、身近に気軽に利用していただく施設です。蔵書は一般書、児童書、事典、雑誌、新聞、カセットブックなど約二万冊でスタートしました。

コンピューターオンライン化をしていますが、中央館、東宇治館、移動図書館（そよかせ号）の区別なく一枚の貸出券で本の貸出返却ができます。

又、全図書館の蔵書が検索できますので、分館で読みたい本がみつからないときは予約することができます。貸出中の本はかえってきたら連絡します。図書館にない本は購入するか、ほかの図書館からとりよせ、できるかぎりご希望におこたえます。図書館の本を借りても、借りなくても、私達の暮らしの中にあつて確かな存在感を持ち、何かの折りに気軽に立ち寄れる施設であればと願っています。

東宇治図書館へ ようこそ

利用者インタビュー

「今までは黄檗でそよかぜ号を利用していました。近くに図書館ができたのでとても喜んでいきます。」とおっしゃっている、五ヶ庄折坂にお住まいの三浦さんに東宇治図書館の感想をお聞きしました。



「小学校のグラウンドをぬけるとすぐ近くで喜んでいきます。昔、読めなかった本を借りてい

ます。文庫本が好きですね。棚がない時は、予約・リクエストして、手に入らないものは、他の図書館からかりてもらって、時間がかかる時もあります。が楽しみになっています。」との事。
これからも、どんどん予約・リクエストしてください。

ほかの皆さんの声も
紹介します

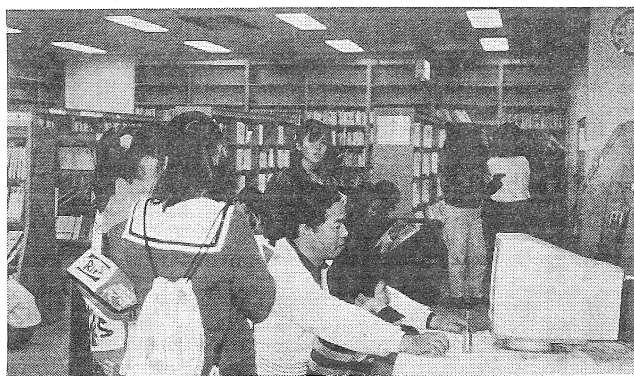
- ◆図書館への道順がわからなかった。三ヶ所ぐらい看板がほしいですね。(48才 男性)
- ◆中央館とくらべて明るい、くつをぬぐのはめんどろ。(71才 男性)
- ◆中央館を利用していたのでせまい。机がもっとあれば。(女子高生)
- ◆借りたい本がたくさんある。サッカーやおはけの本が好き。(9才 男子)
- ◆どんな本がどこにあるかもっと詳しくしてほしい、小さい子どもが走りまわるのはやめてほしい。コンピューター目録であそんでいる人がいる。(小6 女子)
- ◆芸術や、歴史の本をもっと充実

- してほしい。(70才 男性)
- ◆外国の様子がよくわかる絵や写真の本を増やしてほしい。(小6 女子)
- ◆いままで中央館に行っていました。もっともともと本をふやしてほしい。(小6 女子)
- ◆くつをぬぐのは不便、文庫本が少ない。(47才 男性)
- ◆できれば、夕方6時ぐらいまであけてほしいですね。(33才 主婦)



幼稚園の子どもたちも見学にきました。

コンピューター目録を検索する利用者



~~~~~  
ありがとうございます。  
くつを脱いでいただくのは、東宇治コミュニティセンターの利用者そのまま図書館へ入れるように、施設の一体的利用を考えた結果です。ご理解ください。  
看板類は着々と準備中です。しばらくお待ちください。  
今後もしどしあなたの声をお聞かせください。

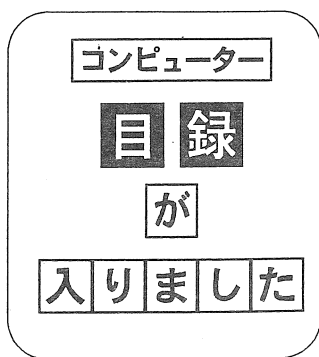


コンピューター  
目録の説明を聞く  
池本市長

て見て下さい。

でもまだ四館しか導入して  
いません。これを使い  
こなせば、図書館の資料  
が手に取るようにわかり  
ます。図書館へ来られた  
ら一度この目録の前にす  
わって、画面に手を触れ

東宇治図書館の開館にあわせて  
同館と中央図書館に利用者が自分  
で検索することができる、コンピュ  
ーター目録が入りました。  
十一月十五日の開館式には、こ  
の目録がはじめて公開され、池本  
市長のテープカットにつづき、参  
加者に披露されました。  
この目録は画面に指を触れて入  
力するタッチパネル式。利用者が  
「書名」「著者」「検索したい言  
葉(キーワード)」などを選び、  
その枠を触れると、五十音表が出  
て文字を入力できるようになって  
います。



コンピューター目録の端末は、  
中央図書館のコンピューターとオ  
ンラインで接続されており、どの  
端末からも全館の蔵書が検索でき  
ます。また図書や雑誌の所蔵の有  
無だけでなく、その資料が現在貸  
出中かどうかもわかるようになって  
います。

土曜日や日曜日などは、この端  
末の前に人がいっぱいですごい人  
気です。利用している人に伺って  
みると「今までのカード目録では  
本のあるだけで貸出中かどう  
かはわからなかったが、コンピュ  
ーター目録は貸出中かどうかわか  
るので便利」という感想が多く聞  
かれます。

また「今までカウンターで職員  
さんに遠慮しながら検索してもらっ  
ていたが、今度は自分でひけるの  
で大変便利」という声もありま  
した。  
コンピューター目録は最近急速に  
普及しつつある端末で、京都府内



フルベ族の民話をテーマに  
―読書週間記念講演会―

去る十一月二十四日、「タール  
ル ターレル 西アフリカフルベ  
族の民話」のテーマで読書週間記  
念講演会が開催されました。

「ターレル ターレル」は「お  
はなし おはなし」の意味でフル  
ベの人たちの昔話の始まりの言葉  
ですが、そんなお話をいくつも披  
露して下さったのは、二十五年來  
現地で民話を採集している国立民  
族学博物館の江口一久助教授です。  
今では二千話もあつめられたと  
いう先生は、「動物だけ」「動物  
と人間」などのお話のパターンを  
具体的に紹介し、生活と深く関わっ  
ているフルベの民話の魅力を伝え  
て下さいました。

また、フルベの人々の写真や民  
族衣装姿の先生を囲んでの質問も

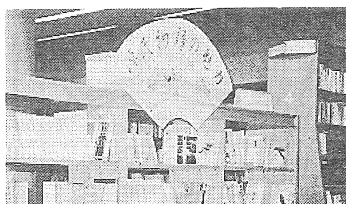


講演中の江口先生

飛び交い、現地の香りに包まれた  
ひとときでした。

源氏物語の魅力展開催

「源氏ろまん92」の一環として、  
十月一日から二ヵ月間、源氏物語  
に関する図書約千冊を集め「源氏  
物語の魅力」展を開催しました。  
小説や美術書など気軽に楽しめる  
図書から専門書まで広範な図書が  
揃い、多くの人に利用されました。



又、併せて展  
示した、第二  
回紫式部文学  
賞受賞作品  
「きらきらひ  
かる」、同市  
民文化賞受賞  
作品もそれぞ  
れ人気を集め  
ました。

郷土のはなし

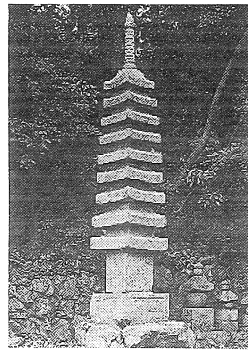
九重石塔

白川の白山神社の北に、高さ九メートルもある九重の石塔があります。鎌倉時代に造られたもので、一般には、藤原寛子(四条宮一〇三六〜一一三一)の供養塔といわれています。

藤原寛子は、平等院を建立した藤原頼通の娘で、藤原氏が栄華を極めていた長元九年(一〇三六)に生まれました。十七才のとき、後冷泉天皇の皇后となり、延久元年(一〇六九)天皇崩御後に即位した後三条天皇の皇太后に、さらに承保元年(一〇七四)には、太皇太后になりました。長い間皇位にいた人として、また和歌に関心が深かった人として、よく知られています。そして、大治二年(一一二七)八月十四日に九十二才という高齢で亡くなり、木幡の宇治陵に葬られました。

寛子は宇治との関わりが深く、平等院近くの池殿や泉殿にたびたび訪れたり、宇治に法定院を創建し、また白川に金色院を建立したと伝えられています。金色院は、康和四年(一一〇二)に建てられ

その名が示すとおり、七間四面の堂舎に黄金をちりばめられていたとされており、のちに岩手県平泉に藤原清衡によって建てられた中尊寺金色堂のモデルになったといわれています。しかし、この金色院は長祿四年(一四六〇)放火によって焼失してしまいました。余生を宇治で過ごした寛子にとって、閑静な白川の地へはたびたび



訪れたと考えられます。おそらくのちの人が、寛子の偉業を偲んで、ゆかり深いこの地に供養塔を建てたのでしょう。明治の始めまでは、金色院の塔頭のいくつかは残されていたましたが廃絶し、今は梵鐘や総門、それに金色院にあったとされている仏像などがわずかに残されているにすぎず、昔の寺の面影はありません。ただこの供養塔だけは、金色院の盛衰や白川の歴史の変遷を見つづけていたことでしょう。

本をかりるには

一 利用案内

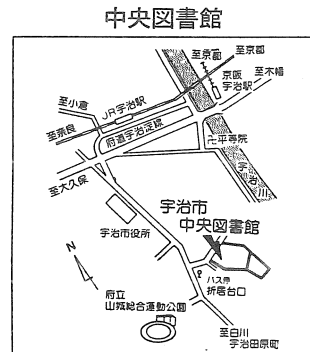
- ・市内にお住まいの方、市内に通勤通学されている方ならどなたでも1人5冊、かりられます。
- ・貸出券は、中央図書館・東宇治図書館・移動図書館の共通券です。

中央図書館・東宇治図書館

- ・貸出期間は、3週間です。
- ・開館時間は、9時～17時です。
- ・休館日は、毎週月曜日・毎月末日 国民の祝日・年末年始 土曜・日曜もあいています。

移動図書館〔そよかぜ号〕

- ・月に市内24カ所を巡回しています。
- ・日時・場所は、毎月1日号の市政だより「そよかぜ号」巡回日程をご覧ください。
- ・次回巡回日に返却して下さい。



編集後記

◆ 今号は、昨秋オープンした東宇治図書館を中心に編集しました。その東宇治図書館、利用は好調で一カ月に約一万冊の貸出しがあります。このペースでゆくと一年間に蔵書が六回転する計算になります。

◆ 図書館では、新しくなったコンピュータを使いこなすのに四苦八苦の毎日。つい昔のくせでまちがったキーを押してしまふこともしばしば。機械の切替えは簡単ですが、頭の切替えはなかなかむずかしい。